

塩竈を訪れた文学者たちの言葉にふれて

俳句を詠んでみよう

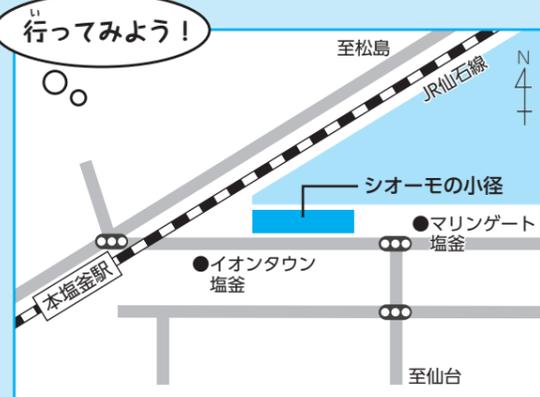
明治時代以降、塩竈市にはさまざまな文学者たちが訪れています。そして、訪れたときの様子を言葉にし、塩竈をモチーフにした作品を残しています。「シオーモの小径」には、文学者たちの残した言葉が刻まれています。

皆さんも、文学者たちと一緒に、私たちが住む塩竈を見つめてみませんか。

シオーモの小径って？

シオーモの小径は、海岸通地区にある海沿いの遊歩道です。そこには、塩竈市を訪れた詩人や歌人、文学者たちが残した言葉を刻んだ石碑が並んでいます。

シオーモの小径は、平成22年に完成し、翌年に起きた東日本大震災によって多くの石碑が倒壊するなどの被害がありました。今年7月に、石碑を再設置するなど整備しなおされ、復旧が完了しました。石碑には、震災で傷ついた跡が残っています。



どんな人が塩竈にきたの？

シオーモの小径には、正岡子規、田山花袋、与謝野寛・晶子夫妻、斎藤茂吉、若山牧水、北原白秋、宮沢賢治、高橋睦郎、佐藤鬼房の文学碑が9個あり、10人11作品が刻まれています。教科書で見たことがある文学者もいるのではないのでしょうか。

籬嶋 涼しさのこゝを扇のかなめかな 子規

佐藤鬼房さんってどんな人？

シオーモの小径には、佐藤鬼房さん(1919年-2002年)という塩竈に住んだ戦後を代表する俳人の句碑もあります。

市内には佐藤鬼房さんが詠んだ俳句の世界を表現した「鬼房小径」という場所があります。さまざまな形の句碑があり、鬼房さんの直筆で書かれた俳句が彫られています。皆さんも、鬼房小径で俳句巡りをしてみましょう。

夕霞小狐ならば呼びとめん 鬼房

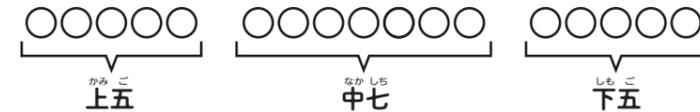


みんなも俳句を詠んでみよう！

塩竈市在住の俳人であり、俳誌「小熊座」編集長の渡辺誠一郎さんに、俳句を詠むコツを教えてくださいました。

はじめに

5・7・5は、それぞれ以下のように呼びます。



1 下五に、5文字を当てはめる

皆さんが発見した5文字のものを当てはめてみましょう。5文字なら、どんなものでもいいですよ。

2 中七に、下五の説明を当てはめる

1で当てはめた5文字のものが、どんなものなのか7文字で説明してみましょう。「○○○○○な」「○○○色の」だと当てはめやすいかもしれませんね。

3 上五に季語を当てはめる

最後に、季節の言葉を当てはめましょう。冬でも暖かい日なのか、とても寒い冬なのか、季語で表します。聞き手の想像が膨らみますね。

気軽に一句詠んでみよう！

塩竈には、佐藤鬼房という俳人がいますし、過去には松尾芭蕉も訪れました。奥の細道には、塩竈の句は記録されていませんが、芭蕉が見た風景を今の君たちが巡って、芭蕉の気持ちになって詠むのもいいですね。塩竈は歌枕の地でもあり、俳句を詠むには、とてもいい場所だと思います。自分の思いを5・7・5で表して、季語が入れば俳句になります。一緒に風景を見ながら、友達同士作りっこしたり、好きな人へのメッセージで一句作ったりするなど、皆さんも、楽しみながら一句詠んでみてください。

一句詠んだら、応募しよう！

佐藤鬼房記念 第二回 塩竈市ジュニア俳句コンクール

小中高校生の皆さんに俳句に慣れ親しんでほしいと「第二回塩竈市ジュニア俳句コンクール」が開催されています。今回は、市外や県外からの応募を含む3,700句以上の応募がありました。皆さんの思いや感じたことを、俳句にして応募してみましょう。

応募作品全てに目をとおし、各賞を決める「選句」を行います。(渡辺誠一郎さん：写真右)



応募方法

- 未発表作品一人3句まで応募できます。
- 投句用紙または200字原稿用紙に、住所・氏名・学校名・学年を記入し、応募してください。
- 投句は無料です。
- 受賞発表は、2月末を予定しています。

応募締切 令和2年1月30日(木) 当日消印有効
応募先 〒985-0072

塩竈市小松崎11-19 渡辺裕子方
ジュニア俳句コンクール事務局
電話・ファクス 022-367-1263

僕も やってみよう！
下五は、今いる場所「会議室」にしよう！



中七は、会議室の特徴を入れる
あっ！「電話が5台」あるな…



上五には、季語をいれて…
できた！



えー！
どんなお部屋なんだろう？

冬の幕の
会議室5台の
電話

